

「緑の都市づくり計画とデザイン」ルーブリック

	1	2	3	4
調査診断力 都市の現状を客観的に把握したうえで、あるべき都市像にあってはめ、それを診断する力	Y: 一般的なあるべき都市像を説明することはできる。 N: どのような都市像が、都市計画として目指すべきなのかの具体イメージも明確ではない。地域への関心や関わる度合いも低い。	Y: あるべき都市像は、自分の中に持っていて、それを現状の都市に当てはめて検討することができる。 N: あるべき都市像はイメージとして持っているが、それを現状の都市に当てはめて、現状の診断をすることできていない。	Y: 現状の都市の状況を把握し、それをあるべき都市像に当てはめて、改善を要す区域とその改善内容を明確に説明することができる。 N: あるべき都市像は、自分の中に持っているが、それを現状の都市に当てはめたとき、どこが改善区域なのか、どのような改善を要するのか、のどちらかが、不明確となっている。	Y: あるべき都市像を明確に持っており、それを現状の都市に当てはめて、問題の地域がどの範囲かを正確に把握し、さらにその地域の問題を現象だけではなく、その背景までも含めて深く分析、診断することができる。
計画制度知識力 都市の改善を推進するために適用が必要な計画制度に関する知識	Y: 都市環境を改善していくための計画制度に関して、 <u>少しだけ断片的に知っている</u> 。 N: 都市環境を改善していくための計画制度に関する知識がほとんどない。	Y: 都市環境を改善していくための計画制度に関して、 <u>基本的なところは把握している</u> 。 N: 都市環境を改善していくための計画制度に関する知識が断片的で少しだけ、である。	Y: 都市環境を改善していくための計画制度に関して、 <u>体系的かつ詳細に把握し、その適用方針も持っている</u> 。 N: 都市環境を改善していくための計画制度に関する知識は有しているが、基本的なところにとどまっている。	Y: 都市環境を改善していくための計画制度に関して、 <u>知識をしっかりと有しているだけではなく、その適用方針が明確、かつ正確で、都市環境の改善イメージを明確に抱いている</u> 。
計画制度適用力 どの地域にどの計画制度を適用して行くのかに関する確かな見極めと、構想に関する力	Y: <u>問題と考えた地域に対して適用する計画制度を少しだけ知っていて、その適用を提案することができる</u> 。 N: 問題と考えた地域に対して適用すべき計画制度がほとんど思いつかない。思いついたとしてもその適用方法が誤っている。	Y: <u>問題と考えた地域に対して、一部の誤りはあるものの適用する計画制度を数多く提案することができる</u> 。 N: 適用する計画制度を提案はできるが、その数が少なく、適用方法に関する誤りも多い。	Y: <u>問題と考えた地域に対して、数多くの計画制度を大きな誤りなく適用する提案を行うことができている</u> 。 N: 適用する計画制度を数多く提案はできるが、一部誤りや適用が現実的でない提案が含まれている。	Y: <u>問題と考えた地域に対する計画制度の適用の提案が的確かつ正確であり、その考え方が現実味を帯びており、さらに制度改正までも含めた幅広く、現実的な提案をすることができている</u> 。
デザインのための分析力 対象地の環境を分析し、デザインで解決していくべき課題を発見する力	Y: 指示にしたがって、対象地の基礎的な資料を収集することができる。 N: 指示した事項の調査も不十分であり、自らの資料調査をしたりすることもない。	Y: 指示にしたがって対象地の調査のための関連資料の収集や現地調査を行い、基本的なデータなどを収集し、そこから簡単な特徴を結果としてまとめることができる。 N: 調査を行い、データを集めるだけで、そのデータの読み取りがほとんどできない。	Y: 対象地の環境分析を行うことができ、そこから得られた結果の適切な分析により、対象地の課題を明確化できる。 N: 資料収集や現地調査を行うことができるが、分析が不十分であり、対象地の課題の明確化も十分とは言えない。	Y: 対象地に関連する資料や現地調査からの分析のみならず、さらに幅広い地域社会に関する体系的な知識によって、対象地の課題を抽出するだけではなく、対象地が持つポテンシャルまで幅広く抽出できる。
デザインの提案力 対象地の課題解決のためのデザインアイデアを考えたす力	Y: 与えられた課題や対象地に対して、 <u>デザインアイデアを思いつきで出すことはできる</u> 。 N: デザインアイデアを考え出すことができない。	Y: 対象地の分析を踏まえて <u>デザインアイデアを考え出すことはできる</u> 。 N: デザインアイデアを出すことはできるが、思いつきにとどまり、調査分析結果とつながっていない。	Y: 対象地の分析に基づき、対象地の課題解決に資する <u>デザインアイデアを具体的な形やイメージとして考え出すことができる</u> 。 N: デザインを考え出すことはできるが、分析の結果と整合しておらず一般的で、対象地の特性をいかしたものになっていない。	Y: 対象地の深い分析やポテンシャルの抽出により、対象地の課題解決のデザインとして効果的かつ独自性のあるものを具体的な形やイメージとして考え出すことができる。
デザインの表現力 考えたデザインを第三者にわかるように図書で表現、説明する力	Y: <u>なんらかのかっこうで考えたデザインアイデアを表現することはできる</u> 。 N: 考えたデザインアイデアを表現することができない。	Y: 考え出したデザインを基本的な図や文書で表現することはできる。また、その内容を第三者に対して説明することはできる。 N: デザインアイデアを適切な図や文書をもって表現することができない。また、第三者に対してその内容を理解してもらえない説明ができない。	Y: 考え出したデザインアイデアを第三者に理解してもらえるような図や文書等に表現し、きちんと説明することができる。 N: 考え出したデザインを表現する図や文書は作成できるが、わかりにくいところがあり、プレゼンも理解しにくいところがある。	Y: 考え出したデザインアイデアの図や文書による表現が的確でわかりやすく説得力の高いものとなっており、そのプレゼンもわかりやすく、他者からの質疑に対しても適切に対応ができる。